

## 2019年度『言語社会』執筆要領

以下の要領で2019年度『言語社会』第14号への自由投稿原稿を募集します。

執筆を希望される方は、別紙申込書エクセルファイルを gensha.kiyo@gmail.com 宛に **2019年4月30日（火）～5月14日（火）**の期間中にお送り下さい。また在籍生、修了者、退学者は、これに加えて申込書エクセルファイルの sheet2 を印刷し、指導教員またはこれに代わる教員の署名捺印を得て事務室に提出して下さい。締切厳守です。

### 1 執筆資格

申し込みの時点で本研究科教員、もしくは言語社会研究科の在籍生、修了者、退学者であること。ただし共同執筆論文については、本研究科教員が主筆者であれば、共同執筆者に制限はありません。

### 2 査読

研究科在籍生、修了者、退学者の投稿については、査読を経た上で掲載の可否を決定します。査読の審査方法に関しては、執筆要領補遺を確認してください。

### 3 原稿の提出期限

原稿提出の締切は、**在籍生、修了者、退学者は2019年6月28日（金）午後3時、教員は2019年9月30日（月）**です。2020年3月の刊行を予定しています。いずれも締切厳守です。

### 4 提出原稿について

- (1) 原稿は「完全原稿」のワードファイルで gensha.kiyo@gmail.com 宛に添付ファイルで送付のうえ、紙媒体のプリントアウトを3部、事務室に提出してください。**紙媒体の提出をもって、原稿の受理とみなします。ファイルの送付だけでは原稿受理にならないので、注意してください。**
- (2) 提出に際しては、別紙2に諸事項を記入して添付して下さい。
- (3) 原稿のカテゴリー・文字数制限は次のとおりです。研究ノート（日本語 12,000 字、英語の場合は 3,700 ワード）、論説（日本語 16,000 字、英語の場合は 5,000 ワード）、資料（日本語 20,000 字）、翻訳（日本語 20,000 字）。文字数上限は厳守です。（これらのカテゴリー・文字数制限を逸脱するもの、日本語・英語以外の言語の場合については、申し込みの際に理由を記載して編集委員にご相談ください。）
- (4) 上記の文字数制限は、註・文献表・図版等を含むものであることに留意した上で、本文・註・文献表・図版等を合わせた最終的な文字数を同じく別紙2に記入して下さい。なお図版の実際の大きさはさまざまですが1枚250字で計算して下さい。
- (5) 日本語以外の言語による執筆、および本文中に日本語または英語以外の言語による引用がある場合、あるいは数式・図表・図版など特殊な組み版を必要とするものをふくむ場合については、同じく別紙2に記入し、さらに特殊なケースについては「特記事項」欄に記載して下さい。
- (6) 註は、文末にまとめて入れて下さい。**ただし、電子データの提出に際して、註やキャプションは同一ファイルで問題ありませんが、図版を Word ファイルに貼り込んだまま提出すると画像が劣化する場合があるので、図版は元のデータを別ファイルとして提出してください。（執筆要領補遺参照）**
- (7) 組版は、日本語原稿は原則として縦書きとしますが、特に横組みを希望される場合は同じく別紙2にご記入下さい（本文中に算用数字による数値データを多用する場合は横組みをお勧めします）。

## —投稿者のみなさんへ 以下すべて熟読のうえ、投稿してください—

\* 編集委員とあらかじめ相談している・いないにかかわらず、万一、査読完了時点で文字数が上記制限を超過している場合は、再度改めて編集部から削減を依頼することがあります。これは、編集段階におけるページ割付調整との関連によるものです。

\* **原稿の書式は原則として執筆要領と執筆要領補遺に従ってください。**特に文献データの記載書式については、種々の論文誌等をよく参照し、なるべく指導教員の指導を仰いだ上、論文内で統一を図ってください。

\* 投稿原稿に、投稿者の名前が明示されないように注意してください。これは査読の公正さを期するためであり、指導教員が査読者になれないのもそのためです。したがって、原稿には論文タイトルと投稿者名を記した表紙一枚を付し、原稿本文には論文タイトルのみを記してください。本文中で既発表論文に言及する際にも「拙稿」などとしないう、表現には注意してください。掲載が決定した段階で、投稿者名を入れて頂きます。

\* 非母語での論文執筆を行う投稿者は、かならず「ネイティブ・レベル」の方のチェックを受けてから原稿を提出してください。文法、語彙、書式等の面でこうしたいわゆる「ネイティブ・チェック」がないと見なされる原稿は「不完全原稿」とし、受理しない場合がありますので事前に準備してください。

## 5 校正

著者校正は原則として1回とします（場合によっては2回お願いすることもあります）。**なお、校正はもっぱら組版調整および表記統一のために行うものです。内容面での変更や修正、またページ数・行数あるいは全体の構成に影響を与えるような大きな直しはできませんので留意してください。**

## 6 その他

- (1) 著作権のある図表、図版などを使用する場合は、著作権の処理は執筆者の責任で行ってください。
- (2) 本誌に掲載された論文は、一橋大学機関リポジトリで公開されます。あらかじめご了承ください。
- (3) 原稿提出のさいは別紙2に必ず連絡先を記入して下さい。海外渡航等でしばらく連絡がとりにくくなる可能性がある場合は、その旨も記して下さい。また、原稿掲載が決定した場合は、12月に校正をお願いする予定です。スケジュール確定次第なるべく早期に連絡を行いますので、その旨ご了解ください。

編集委員 坂井洋史 松原真 三原芳秋（50音順）